

10月26日正午必着

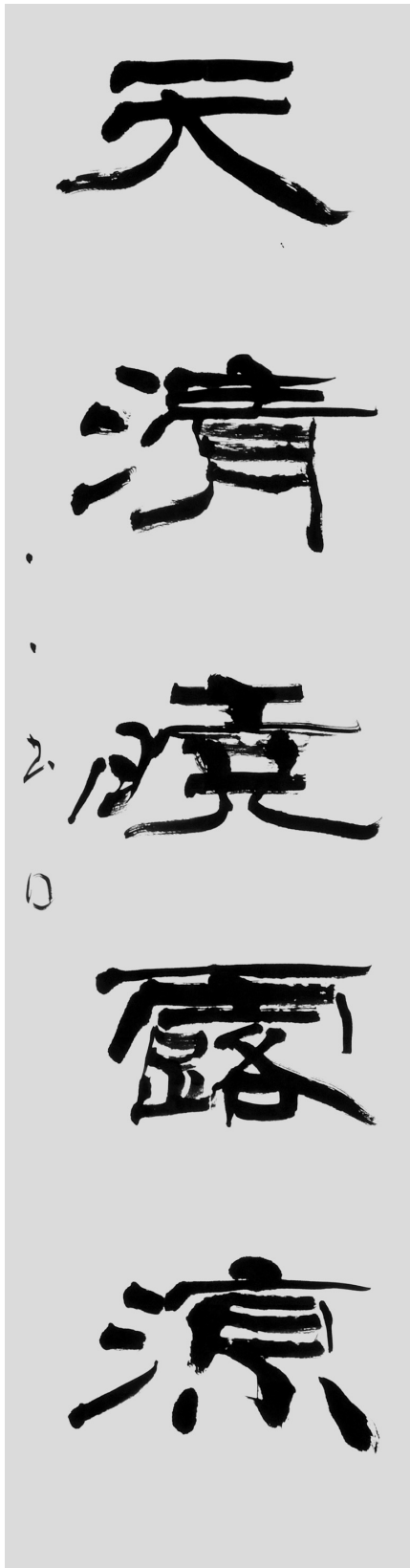
明石春浦先生書



古墨こぼく輕磨けいま滿几ますきにみつるのこ香。
硯池けんち新浴あらたによくすすひとをてらすのひかり照人光レ（趙子昂）

軽く古墨をすると机上に香気が満ち、硯池にたたえた水は光を反射させている。

明石幸子書



天清てんせい曉露きょうろ涼すずし（薩都刺）

秋天澄み曉の露は涼しい。



条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

菊花寒更香（陸 游）

菊花寒く更に香し。

菊の花は寒くなるほど香りが高くなる。

税足了無徴欠吏
飯香時有乞齋僧（陸 游）

税足りて了に徴欠の吏無く、
飯香しき時乞齋の僧有り。

年ゆたかに平和な生活のさまである。

宣州使院別韋應物（劉長卿）

宣州の使院にして、韋応物に別る
劉長卿

白雲乖始願 滄海有微波
戀舊爭趁府 臨危欲負戈
春歸花殿暗 秋傍竹房多
耐可機心息 其如羽檄何

白雲 始願に乖く 滄海 微波有り
旧を恋うて 争って府に越き 危に臨んで 戈を負わんと欲す
春は花殿に帰りにて暗く 秋は竹房に傍うて多し
耐る機心息む可し 其れ羽檄を如何せん

ぬば玉のさ夜はくだちて水づく屋の荒屋さびしきこほろぎのこゑ
（伊藤左千夫）

半紙部規定課題A

10月26日正午必着

一音
飯賢
懷

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

10月26日正午必着

行書

昔賢懐
一飯

隸書

昔賢懐
一飯

明石春浦先生書

草書

昔賢懐
一飯

行草書

昔賢懐
一飯

いにしえの偉人が一飯の恩義に感じ入ったという そのことはもはや千年のむかし
年古りた墓は、樵人たちが知っているだけ かの時のままにここ楚の地の水は流れる
行きずりの旅人が水際の蘋草を摘んで供え 杜鵑は山中の樹木に悲しく啼く
春の草は年ごとに緑に茂る かの貴公子がかつて遊んだこの地に

漂母墓

劉長卿

昔賢懐「一飯」

茲事已千秋

古墓樵人識

前朝楚水流

渚蘋行客薦

山木杜鵑愁

春草年年綠

王孫舊此游

漂母の墓

劉長卿

昔賢「一飯を懐く」

茲の事「已に千秋」

古墓「樵人識り」

前朝「楚水流る」

渚蘋「行客薦め」

山木「杜鵑愁う」

春草「年年緑なり」

王孫「旧此に遊ぶ」

(出典)

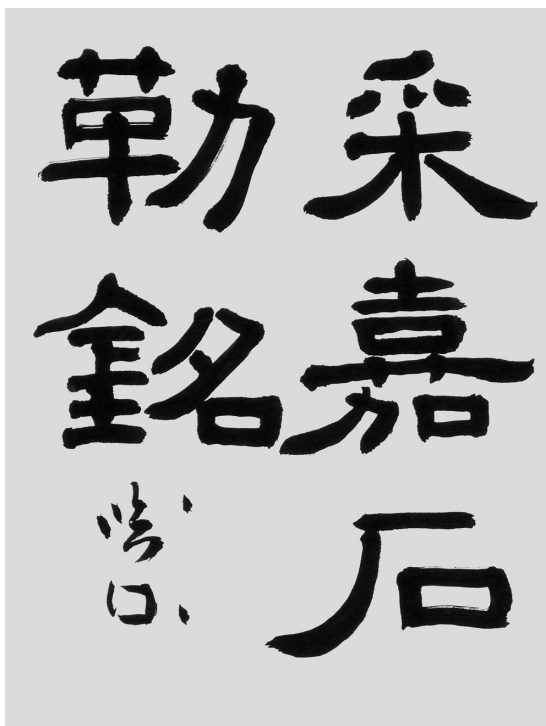
朝日新聞社刊
「三体詩」下より



迹、於是故吏門人、乃共陟名山、采臺石、勒銘示後、俾
追述焉。是に於て故吏門人、乃ち共に名上に陟り、臺石を采
り、銘を勒して後に示し、彝式有ら俾む。



於是故吏門人、乃共陟名山、采嘉石、勒銘（示後、俾）



采嘉石、勒銘

後漢・孔宙碑（二六四）
 秦代に発生した隸書が、前漢を経て、八分隸として意匠的な裝飾性を持ったかたちで完成の域に達したのが後漢（二五～二〇）の時代である。

後漢の約二百年間は、立碑刻石の全盛期であった。人物を顕彰するための建碑の流行によって、そこに刻される文字の美を競う風潮がおこり、書き手の芸術的表現意欲はますます促進されるようになった。これによって、文字の造形、筆法がより洗練され、ついには八分という隸書が完成したのである。

孔宙碑は泰山都尉孔宙碑といひ、泰山郡（山東省）の都尉という軍務をつかさどる役職にあつた孔宙（孔子十九世の孫）の没後、彼の徳を表彰して建てられた碑である。山東省曲阜の孔子廟に現存しているこの碑は、八分書の代表的なものの一つであり、他の漢碑よりさらに横長の結体が多く、曹全碑や礼器碑のような流麗さというよりも、筆を押し出していくたくましい力強さがあり、波磔の左右のバランスをとるために起筆を強くしている等の力学的にも確かな結構法がほどこされている。横画を主として一種のはなやかさやのびやかさを感じさせるこの碑の整然とした美しさと同時に力強さも意識した学び方が望ましいであろう。（春濤）

10月26日正午必着

教育部毛筆



ぎん が
銀 河

中学一年

雨宮春聲先生書



ぐん そう
群 像

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



榎戸春龍先生書

あん
暗

き
記

小学五年



横川春川先生書

えい
永

えん
遠

小学六年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

10月26日正午必着



あん
安

ぜん
全

小学三年

藤田幸春先生書



ふう
風

りゅう
流

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

み そ 小学一年・幼年



森戸春濤書

げつ こう 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

な	漢
は	字
日	は
本	中
で	国
作	で
ら	ひ
れ	ら
た	が

小学五年

め	海
に	底
海	の
の	地
深	形
さ	を
を	知
測	る
る	た

小学六年

に	秋
清	の
ら	露
か	は
に	白
光	玉
る	の
	よ
	う

中 学

葉	黄
は	葉
泉	は
に	山
波	を
紋	染
を	め
残	落
す	ち
	る

一般(級位)

に	天
山	の
の	は
端	ら
た	ら
く	雲
く	は
づ	ら
る	ら
月	ら
影	ら
	ら

一般(段位)

天あまのはら雲うみふきはらふ 秋風あきかぜに 山やまの端はたかく いろづる月影つきかげ (後鳥羽院)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

い	お
こ	ま
の	つ
	り
ね	の
い	
ろ	た

幼年

目	う
	さ
な	ぎ
が	の
い	
み	赤
み	い

小学一年

つ	草
ん	花
で	を
か	
え	か
る	ご
道	に

小学二年

げ	白
ら	い
れ	波
た	
貝	打
が	ち
ら	上

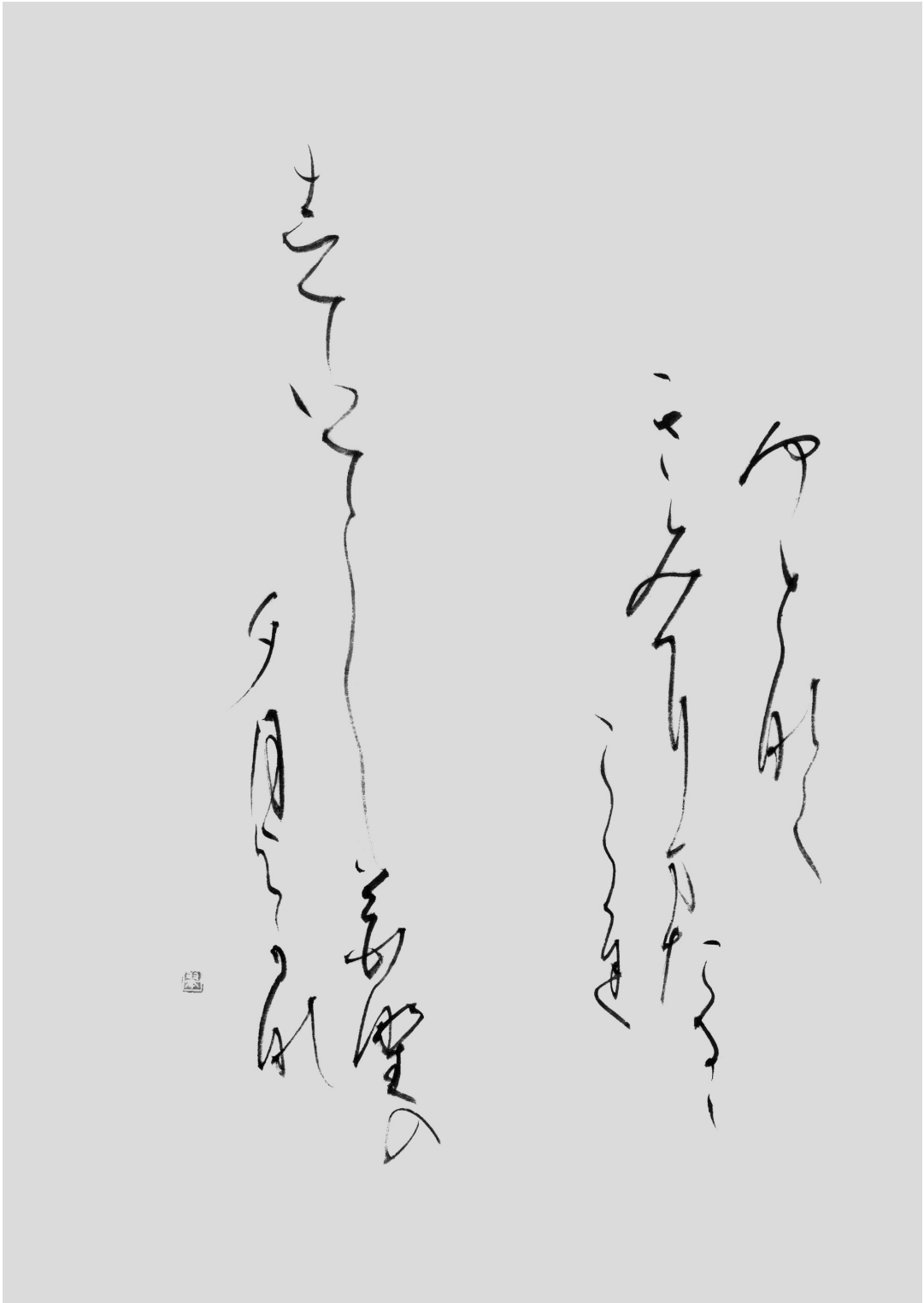
小学三年

わ	む
る	か
古	し
い	か
柱	ら
時	家
計	に
	伝

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



何となく
那 きみに
耳万 またる、こゝちして
遅志 いてし花野の
夕月よかな
与可那 (与謝野晶子)

松永翠舟先生書